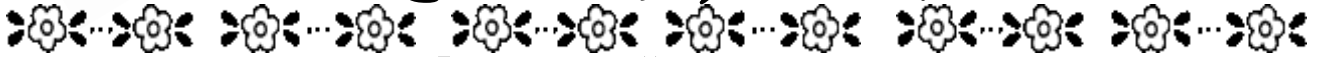




学校教育目標『つながる 続ける 創り出す』

令和7年1月22日
横浜市立三ツ境小学校

三ツ境小だより 2月号



「互いの言葉を大切に」

副校長 矢島 祥子

2025年が始まり、はや1ヶ月が過ぎようとしています。2025年が、皆さまにとってよい年となることを願っています。

かけ声が各地方の方言になっている楽しいラジオ体操があります。例えば、皆さんの良く知っている出だしの「腕を前から上にあげて、大きく背伸びの運動～♪」の部分は、大阪弁のバージョンでは、「腕を前から上にあげて、大きゅうに背伸びの運動やで、ほれ」となっています。また、佐賀弁バージョンでは「腕ば前さいくう上げてから、がばいふとお背伸びの運動」、津軽弁バージョンでは「腕っこめえ（前）から上さあげで、でただぐ（大きく）背伸びの運動から」となっています。

最初の方言のかけ声のラジオ体操は、東北弁でした。東日本大震災後、避難所でラジオ体操が行われていることを知った、医療広告会社に勤めていた西根英一さんが提案したそうです。復興に備える健やかな体と心、コミュニティをつくるための準備体操として、東北弁の「おらほ（わたしたち）のラジオ体操」ができたということです。その後、絆や心を温める効果も生まれ、大きな反響を呼びました。今では各地の方言を使ったラジオ体操ができています。

また、北海道のある地域の診療所で、高齢者が、「おながにやにやする（すっきりしない）。」と、体の状態を方言で表現したそうです。医師が共通語での説明を求めても、「他の言葉には置き換えられない。」と答えたそうです。それぞれの地域の方言が、日本語の幅を広げていて、共通語では伝えきれないことを言い表していることに、地域による多様性や日本語のおもしろさを感じます。方言は言葉の豊かさであり、心の豊かさの象徴でもあると思います。さて、一方「書き言葉」のような文字を中心とした視覚的情報によるコミュニケーションでは、「話し言葉」や「方言」で表わされるような微妙なニュアンスが欠落して伝わってしまうこともあります。毎年、本校では外部講師を招いて、インターネット・スマホ教室を行っています。「書き言葉」だけで思いを伝える携帯メールなどでは、意図したことと違った意味で相手に伝わってしまうこともあるので注意が必要だと繰り返し指導をしています。

これからのグローバル化する社会で違いを尊重しながら分かり合うために、互いに思いをどのように伝えていくか、互いの言葉をどのように受け取るかが大切になってくるのではないのでしょうか。「分かり合おう」という気持ちを持ち、誰もが自分自身の言葉を大切にし、よく考えて伝え合うと同時に、相手の言葉や思いを尊重して受け取り合える子どもたちになるよう、教職員一同、これからも力を尽くしていきます。

さて、最後にちょっと楽しい会話の紹介です。

- 《関西弁》 A：あの犬、可愛いな。
 B：うん、あれチャウチャウちゃう？
 A：ううん、チャウチャウちゃうで。
 B：ほんま？チャウチャウやで。
 A：いや、チャウチャウちゃうんちゃう？

本年も地域の皆様、保護者の皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。